文化交流ホール分科会における議事録（概要）

日時：平成 28 年８月２９日（月）午後２時～午後４時
場所：高山村役場第２会議室

	意　見
①理念・役割	施設をバリアフリーにするだけでなく、幅広い世代の人が参加しやすい事業を企画することにより、生涯ずっと通い続けることができるホール。 さまざまな文化芸術に触れることができる機会の提供を通して、文化に興味を持つきっかけを作り、新たに参加したいと思った人の窓口となることで、生涯にわたり学び育つことができる拠点としての役割。 文化芸術活動の振興をハード（施設）およびソフト（企画）の両面から支え、新たに村の文化の発展を担うことができる人の育成を村全体で応援できる仕組みの構築に資する施設。
②活用方法・事業展開（運営体制）	今年 10 月の村制 60 周年記念式典では自衛隊音楽隊による 1000 人規模のコンサートが企画されているが、このような単発の大規模なイベントは小中学校の体育館を活用すればよい。 人が学び育つには、日々の文化的な活動を継続して行うことができる拠点が身近にあるということが重要である。 ホールの運営について村の職員が全て担うことで経費を最小限に抑えるという考え方もある。 一方で、ホールの機能と専門性を最大限発揮するために他の自治体の同様の施設では、施設は市町村で管理し企画はＮＰＯ法人が立案することで役割分担を明確にし、効果的な運営を行っている事例もある。 施設の将来像をふまえた運営体制を考えていく必要がある。 文化施設を核とした文化芸術の価値を知ってもらう取組み並びに交流学習を通した人を育てる取組みなどは外部資金の獲得が可能である。 しかし事業計画の立案にはノウハウを持った人が携わらないと補助金を獲得することができないのが現実。 文化芸術活動の効果的な振興を目指すのであれば、外部資金を上手く活用しながらホールの企画運営（アートマネジメント）ができる専門的な人材を配置することが必要。 毎年一定程度の運営費が確保されなければならない。外部資金を獲得するにしても元手となる資金は必要。

	施設の活用について検討する運営委員会のような組織を構成し、住民が企画運営に参画できる仕組みを整える必要がある。またイベント開催時や日々の管理運営を補助してもらえる村民サポーター制度等を創設し、ボランティアの育成を図り、運営体制の充実を図ることも必要である。
③施設仕様 （機能・規模）	小中学校の体育館や公民館等の既存の施設でも我々が考えている以上にいろいろな使い方ができるのではないか。 既存の施設を活用しきれているか検証し、新たな施設の機能に反映させるべき。 一般的に文化活動を発表する機会は年間数回程度。しかしそのための練習にその何倍もの回数を重ねている。新たな施設には発表の場としての機能はもちろんだが、日常の練習施設として利用者のニーズ（開館時間、防音・録音等の設備）に応える必要がある。 今後公民館等をはじめとした既存施設が老朽化して使えなくなっていくことも想定し、幅広い使い方ができる多機能な施設にすべき。 少なくとも公民館の設備は利用者のニーズに合わなくなってきている。築 40 年近くなり耐用年数に迫っていることもふまえ、廃止された後のことを想定することが必要。リハーサル室や楽屋だけでなく会議室等の施設も複数整備するなど、公民館機能の移転を視野に入れるべき。
④その他	完成後新たに携わる村の職員の為にも、全ての職員がこの委員会の検討内容について認識できる機会を設けてほしい。 村の文化の継続的な発展のために、長期的な高山村文化振興計画（条例）並びに文化施設活用指針の策定を今後検討されたい。